

大 学 図 書 館 問 題 研 究 会 京 都

〒607 京都市山科区大宅山田町34 京都橘女子大学 小林倫道 気付
(Tel) 075-574-4113 (Fax) 075-574-4122

近畿5支部新春合同例会「情報リテラシーと図書館」に参加して

松島 久

本学では現在、定員削減や大学改革等の関係で組織や業務の見直しが行われているが、その中で図書館については、自動化できない業務は何か、また一般行政職員や外注でなくどうしても図書館専門職員が必要な業務は何かが問われている。まさに司書の専門性や存在意義にかかわる問題である。確かに機械化の進展は急速で、エキスパート・システムの開発等でレファレンス・サービスまで自動化されつつあるのである¹⁾。

また、外注に応じる業者の能力も高まって来ている。筆者の係（閲覧・参考調査・相互利用等を担当）ではこのような状況を踏まえて検討した結果、自動化ができず図書館専門職員を充てることが必要な業務の一つとして、「情報リテラシー教育への関与」が提起された。文部大臣の諮問機関である学術審議会の建議の中でも、大学図書館の電子図書館の機能整備の方策の一つとして、大学図書館が情報リテラシー教育を支援すべきことがうたわれているところである²⁾。21世紀に大学図書館や図書館専門職員の業務がアウトソーシングされたりせずに生き残る上でも、「情報リテラシーと図書館」というテーマは重要である。

講演の内容は概ね次のとおりだったと思うが、筆者自身がちょうど上記のような深刻な問題に直面して答えとそれを裏付ける材料をさがしている時に聞いたものなので、この報告にはかなりバイアスがかかっているかも知れない。これは質疑応答・討議についても言える。あらかじめお断りしておきたい。

情報リテラシーとは情報を認識しまた自ら表現する能力と言える。システムの利用教育は、情報リテラシーを育てることに直にはつながらない。コンピュータ・リテラシーから情報リテラシーへの展開が必要である。図書館員は情報の仲介者と言われているが、利用者の情報リテラシーを育てるため、これからは情報の評価能力（その情報は全体の中でどこに位置するのか、何が重要かわかる）を持ち、利用者に情報の評価基準を伝え（図書館員に教育者になれということ）、そして利用者とともに育つことが求められる。

2月1日(出)、大阪市立弁天町市民学習センターにて近畿5支部新春合同例会が開催されました。三重大学人文学部の柴田正美先生の講演と大阪医科大学からの報告に約40名が参加し、懇親会も30名弱が集まる盛況だったそうです。その時の模様を京都工芸繊維大学の松島さんに紹介して頂きました。

講演の後、大阪医科大学図書館の方から現場報告として、医科系大学図書館を取りまく情報環境の現状、同館における情報提供サービスの実情、今後の課題について発表があった。そして質疑応答・討議では、教員や事務部門などから情報リテラシー教育は教員の仕事だと言われる可能性があるがそれを図書館員が行う場合にどう理由付けするのか、という問いに対して意見が集中した。その中で注目すべきものを次に挙げる。

教員が教えることができるのは一般論であり、資料や機器のある現場（図書館）で必要なときに個別に指導できるのは図書館員である。

これからの図書館員は大変である。時代の先端に行く情報専門家としては当然かも知れないが、要求される能力が非常に高度かつ多方面のものになりつつある。それは図書館の可能性を示しているとも言えるので悪いことばかりではないが、情報の評価能力や評価基準を持つためには、主題に関する知識は必須となろう。この例会でも、図書館員として必要な主題知識とは何かという話が出ていた。またこのリストラ時代、どうも図書館は学内的に立場が弱く人員削減で狙われてしまう。従来通りのことを続けていてはだめで、電子図書館や情報リテラシーなど光の当たっている部分を中心に打って出て実績を積み重ね、教員ユーザーの支持基盤を強固なものにしなければならない。大学教育の改革に図書館が積極的に協力し、利用者の情報リテラシーを養うためにカリキュラムに図書館中心の学習を取り入れてもらう³⁾。現状からは夢のような話であるが、長期戦略としてはそういったものも考えられるのではないか。また図書館員にそういう企画力、経営力が必要であろう（こちらも自動化や外注や一般行政職員で置き換えることは困難である）。

参考文献

- (1) 阿部悦子. 参考業務システムSERENDIPの開発—人物に関する情報源へのアクセス. 「情報の科学と技術」 Vol. 47, No. 1, p. 35-42 (1997)
- (2) 学術審議会. 大学図書館における電子図書館的機能の充実・強化について. 平成8年7月29日
- (3) Breivik, P. S.; Gee, E. G. (三浦逸雄, 宮部頼子, 斎藤泰則訳) 『情報を使う力: 大学と図書館の改革』 東京, 勁草書房, 1995, 258p.

(まつしま・ひさし / 京都工芸繊維大学附属図書館)

ためて不仲になるよりも…

いつもニコニコ現金払い

会費納入はお済みですか? (いつもブンブン会計担当)

月例会の定着をめざして — 立命班の近況 —

井上 雅人

はじめに

昨年、松原氏の配転にともない、支部委員を仰せつかって以来、急に支部報に投稿することが多くなりました。だいたい筆無精の上、ペンがのろい私にとって、なかなかきついものがあります。前に書いた原稿を読み返してみても、「なんとつまらない文章だろう」とため息をつくことしきりです。この支部報を楽しみにしていらっしゃる方々には誠に申しわけないと思いつつ、しばし辛抱していただくしかありません。今回の私に与えられたテーマは最近の立命班の活動を紹介せよ、とのこと。とりわけめざましいことをやっているわけではないのですが、簡単にご紹介したいと思います。

月例会にいたる経過

私が大図研に入会したのは、もう10年以上前のことです。そのころ私は人文科学研究所で図書業務をやっていましたが、図書館には偉大な先輩がたくさんいて、大図研の活動もとても活発でした。当時は図書館の機械化がどの大学でもさかんに議論され、目をみはるような共同研究会など、旺盛に取り組まれていました。そんな多くの経験の中でも最も印象に残っている活動が例会活動でした。レファレンスブックを使った実際の参考業務の経験交流や会員一人一人が何でもいいから自分で読んだ図書の紹介をしたり、とても活気にあふれていました。あれから10年以上経過し（だんだんノスタルジックになってきました）、先輩方はめまぐるしい移動を経て、立命館のさまざまな分野で次々に新機軸を打ち出していきます。で、大図研はというと会員数10名以下、そのうち図書館は2名という状況になっていました。会員といっても、ほとんどが図書館以外の会員なのです。それでも前任の松原氏はとても優秀な人でしたので、研究集会でInternetのHome Pageづくりなど、その持ち味を十分に発揮されました。支部委員をやることになった時、松原氏のような力量もない私は、正直言って何をしたらいいのか、とてもとまどいました。苦し紛れに思いついたのが、「月例会を再開しよう」ということでした。時期的にも昨年は立命館の全学的なネットワーク—Rainbowが軌道に乗り始め、電子メールやインターネットがさかんになり始め、図書館についてもネットワーク対応型の第2次Runnersが稼働していました。さらに近年にないまとまった「図書館政策」も完成を見ます。こうした状況の中で図書館の去就が何かと注目されはじめたのですが、案外、現場の図書館員や研究者の要求が十分汲み尽くされていないのではないか、という思いがありました。とりわけ新しい図書館システムをめぐる研究者の間では疑問もかなり出ていたように思います。そこで若井さんと相談し、教員の声聞く場を大図研でもつことになったのが始まりでした。

こんな月例会でした

第1回は昨年11月、経済学部で中国経済を担当しておられる金丸先生にお話していただきました。先生はご自身の前任校での図書館利用体験も交えながら、立命の図書館に対する注文や学生の図書館利用指導の実状、中国文献を入手する際の苦労など、日頃の思いを存分に語ってもらいました。時間帯を夕方に設定したため、夜遅くまで意見交換ができました。第2回目はドイツから来られた女性教員、グレーヴェ先生にやはり同じようなテーマでお話を聴くことになりました。時間帯も昼休みに設定し、昼食にちらし寿司まで奮発しました。先生からはドイツの大学図書館から始まり、学内で文献を入手するために悪戦苦闘されている様子など、とても興味深く聴かせてもらいました。特に先生はコンピュータ端末が不得手らしく、そういったご苦労がよくわかりました。

今後の方向として

この2回の月例会の様子はもっと詳しくご紹介したいのですが、紙幅の関係上、これくらいにします。ただ今回の月例会の取り組みでは広報活動にも力を注ぎました。「大図研News」を発行して事前の案内と事後の報告も丁寧におこなう必要がありました。こういった取り組みができるのも、これまで教職員組合を基礎にした教員と職員の共同の積み重ねがあったからだと思いますが、今後は教員の話だけでなく、会員の報告も重視する必要があります。「利用者の声を聴くこと」と「会員の報告」、この2本柱で進めていきたい。そして、そういった活動の中から会員も増やしていきたい、などと考えています。もとより、こうした月例会を持続していくことがどんなに多くの労力を必要とするかは、過去の例会が何度も休会となった経験からよくわかっているつもりです。個々の会員の忙しさはもとより、きちんとした準備ができていないとなかなか成功しません。しかし、情報化をはじめとした近年の図書館をめぐる状況は、図書館員一人一人が声をあげ、知恵を出し合わなければならない所に立ち至っていると思います。立命班の最もオーソドックスで地味なこうした活動をみなさんはどう思われますか？。

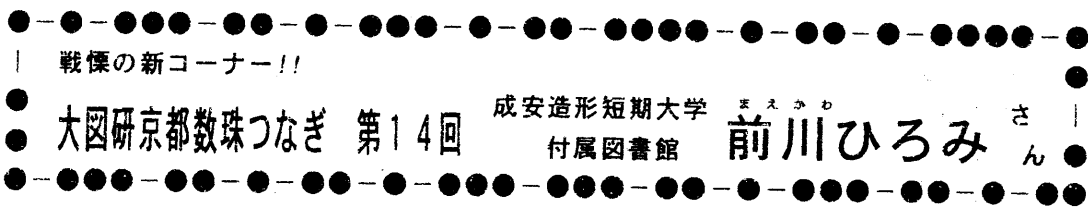
(いのうえ・まさと/立命館大学図書館)

支部委員会だより

第7回/於・同志社大学クローバーハウス/2月18日(火)午後7:00~

【主な議題】

- ① 支部報編集内容について (3月号、4月号)
原稿依頼状況の確認、掲載内容の調整。
- ② ミニ研究会の開催について
全国大会(福岡)の予備企画として京都支部主導で準備の方向。6月開催か？。
- ③ 日図協評議員選挙結果報告
同志社大学・大城氏、立命館大学・若井氏が当選。
- ④ 近畿5支部合同新春例会報告
参加：篠原、竹本、大館、井上、堤、中島、小林、田北



成安造形短期大学付属図書館の前川ひろみです。嵯峨美術短期大学図書館の淀川裕美さんより指名され、書きました。

★☆☆成安ブックス宝島☆☆☆

成安造形短期大学付属図書館では「成安ブックス宝島」と名付けて、近辺の地域文庫、家庭文庫に団体貸出を行っています。短大が京都市内から長岡京市に移転した時から始めていますから、そろそろ10年近くなります。これらについて、現況をかいつまんで報告いたします。

★☆☆成安ブックス宝島の活動内容☆☆☆

宝島の活動内容は、次の通りです。

目的：幼児に対する造形教育に寄与し、地域社会の文化向上に貢献することをめざす。

利用：無料。団体貸出のみ。貸出冊数は最大100冊、貸出期間は最大1カ年。

資料費：年間30万円。この資料については、別置コーナーをもうけている。資料にはブルーのラベルを貼っている。

P R：機関誌「成安ブックス宝島」を年10回発行。B4判1~2枚。内容は、気候の挨拶、連絡事項、新着本の紹介、季節・行事などの折り紙の紹介、休館日のお知らせをしている。そして「宝島」を郵送する封筒の中に、短大図書館の展示目録や大学の展覧会や講演会の案内状を同封している。大津の成安造形大学であった第2回折り紙の科学国際会議には、縮刷版(1~58号)をくばりました。

詳しい活動については、「第3回京都図書館大会事例報告書」(1994.12.1)や「私立短期大学図書館研究13号」(1993.6.26)に掲載しているので、その後の現況報告に限って述べる。

機関誌は1997年2月現在80号になる。毎回掲載している折り紙の紹介もなかなか好評なようだ。1995年度(1996.3.31)現在22文庫、貸出回数270回、1文庫1回に平均29冊になる。貸出冊数は7,632冊で、これを団体全員が利用するわけです。この中には成安ブックス宝島の本を借りるためにつくった文庫がかなりある。

★☆☆文庫の利用その1☆☆☆

この内、図書館から貸し出してどういう利用があるのか、2つの文庫にたずねてみた。以下は、うさぎ文庫さんが書いてくださったのを引用させていただきました。

・私共のうさぎ文庫は年4回の借り出し利用を大変楽しみにしています。1回に約60冊の色んな分野の本を3カ月間お借りしており、年240冊は読んでいることになります。ここで借りた本は文庫に置くのではなく、メンバーの勉強のためとか資料として大いに活用してもらっています。児童文学中心の文庫といえど、常日頃から多分野の本と関わり、刺激を受けておきたいという思いがあります。専用の手作りの手提げに本を入

れ、書名や回す順番等を書いた札を下げて、メンバー宅を次々まわります。うっかり長いこと手元にとどめていたり、忙しく読めないことも多々ありますが、本のある生活っていいなあとつくづく感じます。

・折り紙や工作の本の種類豊富なことは大変有りがたいです。文庫で即活用できます。夏休みの工作大会はうちの文庫の恒例行事となり、ここで夏休みの宿題を済まそうと、毎年大盛況です。造形関係の本の多さがこんなとき役立ちます。ゆったり3カ月もお借りできることも有りがたいです。

・「ちいさな1」（アン・ランド&ポール・ランド作、谷川俊太郎訳、ほるぷ出版）もたっぷり3カ月お借りできたお蔭で紙芝居にすることができました。2月の文庫当番で演じてみるつもりです。

・程よい広さの図書館で手近に本を取りパラパラめくるときの快感。新しい本との出会いや貴重な資料の展示物にため息が出たり。センスのいいおしゃれな学生さんたちにまじって図書室内をかつ歩できるのは、中年の私にとってはピッと身のしまる刺激となっています。

・毎月送って下さるパンフ類も楽しみです。短大総合芸術研究所主催の公開講座によるインドの楽器や舞踊紹介のときは心がときめきました。「くらしの中の美術館」の三つの美術館（大原美術館館長、京都市美術館館長、滋賀県立近代美術館館長）の館長さんの講演も聴き入ってしまいました。図書館のオズボーンコレクションの紹介にも感激しました。「成安ブックス宝島」74号（1996年7月号）の折り紙コーナーでのシャツは良かった。今年のクリスマスにはシャツの包みでプレゼントし、大好評でした。

・思いつくまま書いてみましたが、成安さんで借りられるからうさぎ文庫のメンバーになった人もいますヨ。まあそんな人はキトクな人ですが、これからもどんどん利用させて下さい。」〔うさぎ文庫 鈴木愛子氏記〕

このうさぎ文庫は、マンションのなかにあり、文庫としての歴史も長く、人数も多い団体です。また川や水関係の目録（B4判、一枚）を作ったりしているので、地域文庫の目録は私たちにとっても貴重な資料となります。両者の関係も、何かお願いすると、次の日には、こだまのように反応してくださり、感激することも多い。

★☆☆文庫の利用その2☆☆★

二つ目のなないろ文庫では、次のようです。

なないろ文庫のメンバーは子どもの通っていた幼稚園で出会いました。私達自身も昔、絵本や物語を読んで育ちましたが、親となり、子育てをする中で再び絵本は親しい身近なものとなりました。

子どもと絵本のページをめくるとき、それは親子で絵本の中の世界を自由に冒険できるワンダーランドでした。子どもにとってもまた私たち大人にとっても、本当に楽しく大切な時間でした。今では子どもも成長し、いっしょに本を読むことも少なくなってきたのですが、私達の絵本好きは続いています。

新しい展開として3年前から「スライドえほんげきじょう」というものを始めました。（なないろ文庫の5名+他2名）。絵本をスライドに写し、私たちがナレーターや配役を

きめて、お話をする。大きな「絵本のよみきかせ」のようなものです。

全く素人ですから、年一回幼稚園のバザーで子供たちを集めて上演することを目標に、楽しみながらもいいものつくろうと思ってやっています。

今まで上演したもの「じごくのそうべえ・10までかぞえられるこやぎ・ぶたぶたくんのおかいもの・うちしたのはだれよ(スライド)、おかえし(パネルシアター)」〔なないろ文庫、春日満子氏記〕

この文庫は、成安の本を借りるためにできた団体です。大人5名とその子供たちで構成されています。成安の近くで、よく集まっておられるようです。

春日さんは、成安のごく近所に住んでいて、子供が幼稚園に通っている時は幼稚園の図書委員で、この図書室と成安ブックス宝島をドッキングさせて、幼稚園の図書館活動を非常に活性化させた方です。子供が卒園して後は、また新しい文庫を作りました。

文庫自体も子供の成長と共に変化してお母さん達自身の活動にもなっていくようです。

こどもの成長につれて、活動内容が変わったり、世話人の交代によって文庫の勢いが左右されることもあるようですが、紙面の都合上、二つの例をあげるにとどめます。

★☆やわらかい本とかたい本☆★

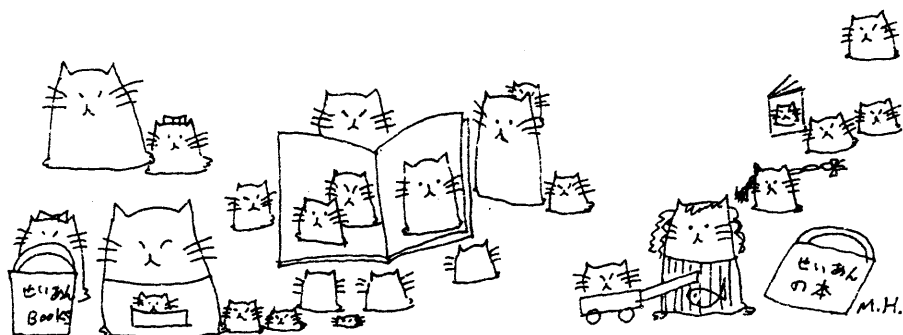
次に宝島の活動にかかわって、図書館員が考えていることを少し書いておきます。

10年ともなれば成安ブックス宝島自体の資料が増加したため、成安の宝島コーナーを閲覧室の雑誌コーナーの隣に移動させました。このためブルーラベルの本で、折り紙、手話、絵本、昔話、しかけ絵本、等々、学生がどんどん活用するようになったことに非常に驚きました。成安にしかない絵本の絵や、造形系の本が地域にとっても学生にとっても、お互い生き活きと共鳴しあっているようです。学生にとっても専門書に入るための導入書としてこの宝島は一つの大きな意味をもってきています。やわらかい本からかたい本へとより利用の向上が見られます。また地域文庫にとっても、教養的な幼児教育的なものから専門的知識の獲得への方向に利用されていると自負しています(地域の方への貸出はブルーラベル本以外にも学生、教職員の利用に差し支えないかぎりにおいて利用できます)。宝島は、すばらしいたまり場になりつつあります。

今後とも、造形系の図書館の特色を生かしてやっていく意義が大いにあります。

私は、学生の利用向上のため、そして地域に開かれたミニ図書館活動＝成安ブックス宝島を今後とも永く続けていきたい。

次回は、平安女学院短期大学図書館の石本容夫さんをお願いします。



大阪市立大学・学術情報総合センター 施設見学会のご案内

大阪市立大学・学術情報総合センターは昨年10月開館、地上10階、延床面積37000㎡。大学キャンパスの中ではかなり目立つ同センターを、ぜひこの機会に見物しましょう。

日 時：3月15日（土）14：00～

集合場所：大阪市立大学学術情報総合センター

1F エントランスホール（東側正面よりお入りください）

交通機関：（JR）大阪～大阪環状線天王寺～阪和線「杉本町」下車徒歩10分

（地下鉄）梅田～御堂筋線「あびこ駅」下車4番出口～南西へ徒歩20分

※ 参加希望者は至急、もよりの支部委員までご一報下さい。

※ 止むを得ない場合は下記緊急連絡先まで。

大阪市立大学・伊賀由紀子

Tel 06-605-2305

Fax 06-605-2922

e-mail iga@law.osaka-cu.ac.jp

大阪大学附属図書館・村上健治

Tel 06-850-5049

e-mail: g00815@sinet.ad.jp

目次

「情報リテラシーと図書館」に参加して （松島久）……………	1頁
月例会の定着をめざして （井上雅人）……………	3頁
大図研京都数珠つなぎ⑭……………	5頁

支部報に関するご意見は最寄の支部委員または編集気付（京都橘女子大学 ☎075-574-4113 (FAX 075-574-4122) ♥ PXX01651@niftyserve.or.jp またはNIFTY-Serve:PXX01651小林）まで